令和5年度取組状況

ものづくり工学科

電気電子工学コース

准教授 石崎明男

取組状況

教育	<ul style="list-style-type: none">・学習者中心の授業:これまでに学んだことを部品として提示し、これらから新しい知識を構築させる授業を3年生で実施した。しかし、今年度はあまりうまく機能しなかった。途中、助言を増やしポイントに着目するよう促したものの、奏功しなかった。課題の未提出や複製も横行しており学習モチベーションの低さが気になった。・知識中心の授業、評価中心の授業、LMSの活用:2年生の授業にCBTを本格導入して2年目となった。今年度の小試験受験回数は3058回だった。これだけの試験を採点しフィードバックするのはCBTでなくてはできない。イニシャルコストはかかるものの、(安定運用できるようになれば)ランニングコストはほぼゼロなので、継続して使っていきたい。・共同体中心の授業:3-4年生の授業で、PBL形式の授業を行い、回路の設計製作を行わせた(オーディオアンプ、4ビットCPU)。・進路指導:過去2番目の国公立大学への進学者数を達成した。時間をかけて取り組んだ成果が出たと感じている。
研究	教育に統合
社会貢献	該当業務を担当していない。